

相談室ニュースレター

第3号

2022年 1月発行



「相談を受ける者」の「基本」

総務局相談室長 小岩裕一

他人から相談をされたことがない人は、おそらく一人もいないでしょう。その時、適切な励ましや助言ができたでしょうか。その悩みを持つ方に役立ったでしょうか。どうも、逆の場合の方が多いように思います。その場合、「相談を受ける者」の「基本」が欠落していたのかも知れません。

1、信頼関係

信頼関係があるからこそ、相談してみようということになります。相談を受ける者の信仰、人柄への信頼は言うに及ばず、相談の分野の知識、知恵、解決方法などの「基本的なこと」は知っていることの信頼です。間違った情報提供は、信頼を裏切ることになり、相談された方を混乱させることになります。

2、守秘義務

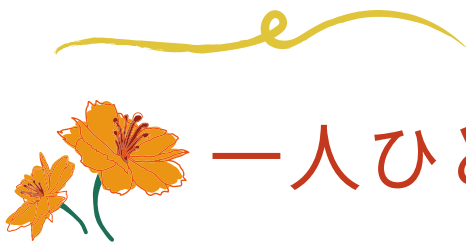
他人の秘密を知ることは、相談を受ける者も心理的に大きな負担となります。それに耐えきれなくて、「ここだけの話」と他言してしまうと、秘密の暴露になってしまいます。相談した人の失望は、秘密が漏れてしまったことです。気をつけましょう。秘密のままでは、むしろ問題が大きくなりそうな場合は、他の適切な人や専門家への相談するように勧める必要があります。

3、自己決定

相談は、相談に来られた方が自分の判断で決定することが大原則です。「先生に言われたから、決めた」では、後でうまくいかなかった時に、相談を受けた者への責任転嫁となり、相談された方にとって良いことではありません。情報提供や助言をするのは良いのですが、最後は「自己決定」です。

4、祈り

人のできることは限られていますし、相談を受ける者も、不十分なことも多々あります。だからこそ、相談に来られた方にも、相談を受けている者にも、信仰と忍耐と知恵が与えられるように祈ります。祈ることによって、神を信頼し、「心の余裕」が生まれます。そして冷静な対応ができるようになります。そこから解決の糸口が見えてくるようです。



一人ひとりの幸せのために②

木村勝志（ハラスメント相談窓口）

ハラスメント(harassment、いやがらせ)とは、「優越した地位や立場を利用したいやがらせ」(広辞苑)のことで、DV、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、モラルハラスメント、アカデミックハラスメント等があります。

精神科医・香山リカ氏は「その意図や動機はともかく、ある関係性の中で相手が望まないことを『キミのためだ』と一方的に考えて行い、その結果、相手の身体や精神、人格が傷つくようなことがあれば、それはやはりハラスメントなのである」と記しています(『知らずに他人を傷つける人たち—モラル・ハラスメントという「大人のいじめ」』)。

「最近、二言目には『ハラスメント、ハラスメント』とうるさくて仕方がない。昔は良かった」と言いたくなる人もいるかもしれませんが、昔の異常な点に気づいて健全にしようとしているだけなのです。人格を尊重されないことほど、人間にとって苦しいことはないのですから。

(次頁に続く)

教団、教会、家庭が健全であることは、何よりも主ご自身が望んでおられることです。そのためにも、次のチェックリストを是非試してみてください。()には、牧師、教会役員、教会員、伴侶、親、兄弟、友人、恋人等、適宜入れてみてください

【ハラスメントのチェックリスト】

- 短気である。
- プライドが高い。
- 劣等感がある。
- 自分の思いどおりに事が運ばないとイライラする。
- 人に間違いを指摘されたり意見を否定されたりするのは我慢ならない。
- いつも誰か他人のせいにする。
- 世間体が気になる。
- 大声で怒鳴ることがある。
- 「厳しい人だ」と人から言われることが多い。
- 人に謝るのが苦手だ。
- 些細なことが気になったり傷ついたりする。
- 自分のことを理解してくれる人が少ないと感じる。
- 白黒はっきりつけなければ気が済まない。
- ()に対して「お前」と言ったり命令口調を使ったりする。
- ()によく説教する。
- ()が挨拶したり話しかけたりしても、無視して口を利かない。
- ()に舌打ちしたり溜息をついたりする。
- ()が楽しそうにしていると不機嫌になる。
- 人の前で()を攻撃したりバカにしたりする。
- ()の電話・メール・手紙等を細かくチェックする。

(香山リカ著『知らずに他人を傷つける人たちーモラル・ハラスメントという「大人のいじめ」』他を参考に
して作成)

いかがでしたでしょうか。当てはまる項目が多いほど、ハラスメントをしやすい傾向にあると言えるでしょう。もしかしたら、これまで問題にならなただけで、あるいは自覚していないだけで、実はハラスメントの加害者であったかもしれません。

ハラスメントをしてしまう原因は様々ですが、幾つかを挙げてみます。「ことばで心理的な威圧感を与えられた子どもは、大人になっても心の底に抑圧された怒りが蓄積されているのです。(中略)根底には、支配欲があるのです。そのため、周りが自分の思うようにならないといらいらし、それが蓄積すると怒りになるのです」(丸屋真也著『健全な信仰をどう育てるか』)。

「健全な人間関係を阻むもの、まずその第一は妬みです。(中略)嫉みの特徴は、支配です。(中略)支配からは真の愛は生まれません。健全な人間関係も共有できません」(丸屋真也著『神との関係、人との関係』)。

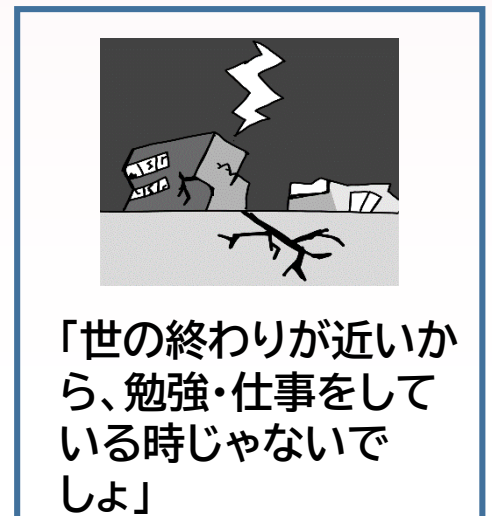
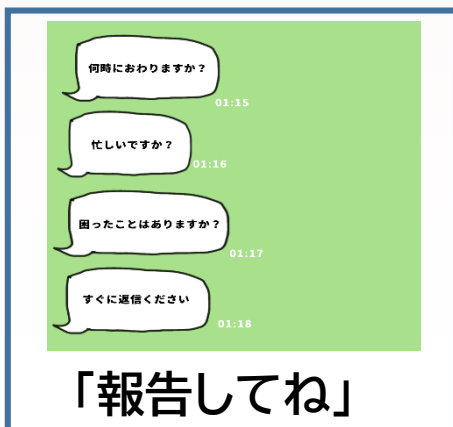
自分もハラスメントをしていたかもしれない、()にハラスメントをしていた、と正直に認めるのは辛く苦しいことかもしれませんが、目を塞いだままでは何の解決にもなりません。主イエスはあなたにも「良くなりたか」(ヨハネ5:6)と語りかけておられます。どうか勇気を出してご相談ください。解決の助けとなる専門家や書籍等を紹介することができます。祈りつつ対応し、秘密は厳守しますので、安心してご相談ください。

このニュースレターを教会役員や教会員がいつでも読めるように、お手数ですが、印刷・配布していただけないでしょうか。また、近日中に教団ホームページの「総務局相談室 ハラスメント相談窓口」でも閲覧できるようになりますので、そのことを教会の皆様にお知らせいただけませんかでしょうか。教団、教会、家庭が健全であるために、是非ともご協力くださいますようお願いいたします。

ハラスメント相談窓口

小岩 裕一(和歌山教会、090-9697-1338)、小岩 喜代美(和歌山教会、090-8526-1338)
木村 勝志(芦屋川教会、080-9281-1498)、仁科 早苗(灘教会、080-3004-0247)

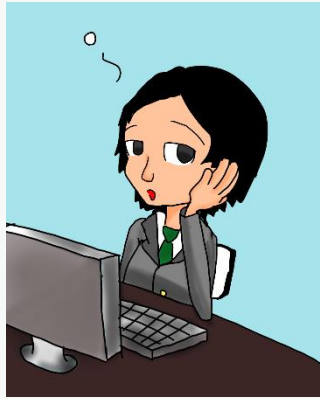
あなたに こんなことはありませんか？



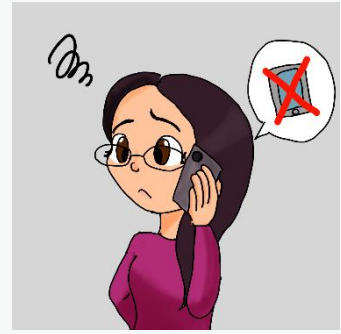
★信頼できる人との出会いは大切です。でも「良い人」が健全な信仰を持っているかどうかは別問題です。宗教的に深く入り込むと、自分では抜け出ることができなくなります。何かおかしいと思ったら、その疑問を押し込めないで、身近な人に相談してみましよう。

あなたの身近な人（家族・友人）にこんなことはありませんか？

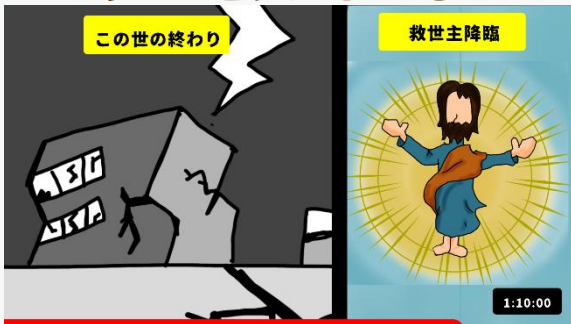
● 生活の
パターンが
変わった。
勉強、仕事
に身が入っ
ていない
様子だ



● 連絡が
つかなくな
った



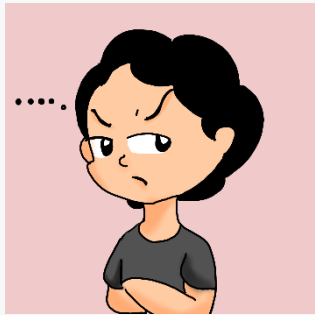
● 変わった YouTubeを
ずっと見ている



● お金の
使い方が
激しく
なった



● 教会の説教
を
まじめに
聞いていな
い



● いつも誰かに
連絡しているようだ



イラスト:仁科優一

★最初は信頼関係を築き、その後、片寄った教えを学ぶように勧められます。SNSを通じて知り合い、YouTubeなどで異端・カルト団体に深入りしていくケースもあります。また不健全さがわかりづらい団体も増えています。

しかし不健全な教えに支配されると、人格も、人生も、人間関係もゆがめられてしまいます。早い時期の対応が必要です。ちょっとした疑問でも、どうぞ相談してください。

連絡先 小泉 創 (090-6624-5501) ・小岩裕一 (090-9697-1338)